

第2回 立川市新校舎建設マスタープラン検討委員会

日時 : 平成28年9月21日(水) 18:00~20:00

場所 : けやき台小学校 視聴覚室

出席者 :

【検討委員会委員】 ■長澤委員長 ■富永副委員長 ■菅原委員 ■小林委員 □佐藤委員

■須崎委員 ■星野委員 ■大野委員 □藤縄委員 □山田委員

■堀江委員 ■栗原委員(教育部長) ■吉岡委員 ■宮城委員

■飯塚委員 □梅津委員 □河野委員

【市職員】 ■小町教育長 ■小林課長(施設課) ■田村課長(学務課)

■神崎課長(子ども育成課) ■庄司課長(教育総務課)

■小瀬課長(指導課) ■矢ノ口課長(教育支援課)

【事務局】 ■庄司課長 ■中島

【策定支援業者】(株)豊建築事務所 ■田中 ■奥澤 ■高柳 ■表 (以下敬称略)

開催に当たって ※委員長に代わり富永副委員長が会を進行

- ・ 検討委員会公開に当たって、傍聴される方へのお願いを説明。
- ・ 出席者の確認。訃報のお知らせ及び、委員の再選出について説明。
- ・ 配布資料の確認。

1 前回の検討委員会について

- ・ 前回の議論にて出された意見について振り返り説明した。下記は主な意見。
 - ・ 地域に密着した学校、皆さんの学校としての地域の学校。
 - ・ 校庭の敷地面積を広くとってほしい。
 - ・ メンテナンス、維持していくのにいい建物にしていきたい
 - ・ 十分な駐車場を確保してほしい
 - ・ 全学年がうまく交流できるような配置を考えてほしい
 - ・ 子どもたちが落ち着ける「パオ」という小スペースがあってもよろしいのではないか。
 - ・ 小学校の前の交差点は交通量が非常に多く、非常に危険である。
 - ・ スポーツの観点からも、校庭を少しでも広くとったほうが良い。
 - ・ 学校管理の観点からすると、地域と学校は分離したほうが良い。
 - ・ プールについて新しくなることを期待している

- ・今の位置でプールを改修しても、あまりよくないのではないか
 - ・子どもたちの安全、セキュリティーが守られる学校が必要。
 - ・先生が疲れていてはいい教育ができない。先生の環境も考えたほうが良い。
- ・新校舎のアンケートについて配布郵送済みであること。アンケート結果については第4回にて集計結果を発表予定であることの説明を行った。

2 敷地の法規制と配置イメージについて

- ・策定支援業者より敷地の法規制と配置イメージについて説明を行った
- ・事務局から一団地という住宅施設の区域に指定されている旨を補足説明。新校舎の延べ床面積としては約1万㎡程度である旨を説明した。

<主な意見・質疑応答>

【G委員】 体育館の上にプールを設置する案とその他に体育館の下に設ける場合があると思うが経費などの違いはあるか。

【策定支援業者】 体育館の下にプールを設ける場合は、プール水温を保つ為、温水プールにする必要があり、メンテナンスコストが上がる。技術的には可能だが、建設コストも上昇する傾向にある。

【M委員】 5階建てでも建設可能か。

【策定支援業者】 25mまでは建設が可能。1万㎡の面積内であれば可能。小学校として何階が良いのか等、高層とする場合は議論していく必要があると思う。

【K委員】 エレベーターの設置予定はないか。

【栗原委員】 小学校では建替えをした第一小学校、大規模改修を実施した第九小学校と第六小学校の3校にエレベーターを設置している。中学校は、1校を除いて8校にエレベーターを設置している。新築の場合は、エレベーターは設置します。

【A委員】 持続可能な校舎をつくる観点からも、エレベーターを設置するところがほとんどである。

【H委員】 災害や地震があった際の避難所として、現在のマンホールトイレが8個では足りない。屋上に太陽光を設け、電気を節約できるのが良いのではないか。

【F委員】 学校のプール授業等の際に、外から見ている人がいる。見えなくする為に、体育館の上に設置する等対応して欲しい。また、校舎からの移動距離も含め

て、検討して欲しい。

【G委員】 災害時のトイレに関連して、トイレを使うに当たって水の確保が必要となる。遠くのプールから運ぶより、体育館の上にプールがあった方がマンホールトイレにちょうどいい位置になる。校舎を北側に設置した方が校庭も広い為、良いと思う。

【A委員】 プールを校舎上に設けることは可能か。教室を5階建として、裏を低くするなどして、プールを設置することは可能か。

【策定支援業者】 技術的に可能と考えるが、平面計画上設置が難しい為、乗せる場合は体育館の上が良いと考えている。

【策定支援業者】 配置計画において、既存との環境変化についての視点についてはいかがか。

【M委員】 西側に配置した際は、近隣へ向かって音を出さず配置となるため、気を使ってしまう事や、けやき台団地の手前の棟には、当音が行ってしまうだろうなと危惧する。

【A委員】 北側の住宅等への日照権などの問題は大丈夫か。

【策定支援業者】 法的には適合するが多少、日影は伸びる可能性が高い。方角的にいうと、朝の日が遮られる形になる。

【H委員】 教室は、南向きにした方が良いのではないか。

【A委員】 けやき台小学校、若葉小学校も、南側に向いているので、比較がなかなか難しいと思うが、一部斜めになっている室についてはどうか。

【M委員】 斜めの教室は、「きこえとことばの教室」が配置されている。毎日使うところで無いため比較ができない。一部だけ東側、西側を向いているという、条件が変わってくる。全部が南に向いているというのは、教室としては大変やりやすいと思う。

【栗原委員】 第一小学校には東向きの普通教室がある。冬になると、日が低くて、直接それが教室に入ってきて、非常にまぶしいという話があった。

【C職員】 日の高さや教室の配置は、しっかり考えたほうが、後々良いと思う。

【C委員】 北側教室等の配置等、地域性も踏まえた事例もある。しかし、この敷地の形状などを踏まえると、北側配置案で南面にとというのが一番シンプルに考える。

3 所要室について

- ・ 策定支援業者より所要室について説明を行った。
- ・ 事務局より文部科学省で定めている基準面積について説明を行った
- ・ 事務局より所要室について、以下の補足説明を行った。
- ・ 「きこえとことばの教室」については、平成30年度には、けやき台小学校から第八小学校に移設することになっている。
- ・ 第一小学校の特色については、学年に1つ大きなオープンスペースを設けている点。食育を大切にするという点でランチルームを広く造っている点がある。
- ・ 事務局より児童数の推計について説明を行った。平成33年（新校舎完成時）は579人、翌年の平成34年度には491人となっている。クラス数も、平成33年度には18クラス、平成34年度には16クラスとなる。

<主な意見・質疑応答>

- 【A委員】 所要室表の右に新校舎がないと、見づらい。
- 【O委員】 特別支援学級の場合には小人数で小さく分けて使う為、大きさは別として、教室数は幾つか必要と思う。
- 【栗原委員】 市では、平成30年度までに全ての小学校で在籍校に特別支援教室（通級学級）をつくることになっている。固定と通級、両方が新校舎にも必要になる。
- 【M委員】 普通教室は、少し小さくなるとか、少し大きくなるとかというのは何か見通しはあるか。
- 【M委員】 けやき台小学校の場合は、まだ特別支援教室は行っていない。
- 【栗原委員】 タブレットの端末を全校に導入した為、コンピューター室はなくなる。
- 【A委員】 学校がどういう方向に向かうかを含めて、理念のほうも話し合っていかなければと思う。
- 【G委員】 けやき台小学校でホリデースクールや、放課後教室で使わせて頂いている部屋が、授業外活動みたいな形で使えるようなものがぜひ欲しいと思う。
- 【N委員】 現在は、視聴覚室を共有している。

- 【D委員】 けやき台小学校と若葉小学校の歴史があるので、校歴を飾れる、若しくは、子どもたちがそこで触れ合える部屋があると良いと思う。保護者の立場からすると、戻れる場所があるとうれしいなと思う。
- 【栗原委員】 第一小学校の事例では、ランチルームが1階のエントランス脇にあり、PTAや保護者の方が集まるときに、重宝している。
- 【N委員】 多目的に使われるよりは、衛生面で別にしてもらった方が良いと思う。結局はランチルームとして機能しなくなったこともある。
- 【C委員】 図書室は図書室として使うとか、ランチルームはランチルームとして使うのではなく、誰がどういう使い方や、共用していくのか。家庭科室、視聴覚室等は、地域開放に使用できる。部屋名だけに捉われず、表を見ていく必要がある。

4 新校舎の理念について けやき台小学校と若葉小学校で大切にしていること

・両校の校長先生より、理念と大切にしていること新校舎への期待をお話しいただいた。

【けやき台小について】

- ・主体的に子どもたちが学びを進めていける。
- ・子どもたちが日々喜んで学校に来て、子ども同士が仲よく活動していることが輝くひとみ、笑顔あふれるけやき台の子。
- ・権威と温かさを感じさせる学校づくり
- ・教師がしっかりとした授業力をもって、きちんとした指導のできる教員
- ・一人一人の教師の指導力を高めていく

<新校舎に期待すること>

- ・新校舎に期待することは、若葉町という地域に1校・1校の関係になる。若葉町を愛する子ども、若葉町に根差した子どもを育てるための学校

【若葉小について】

- ・子どもたちが行きたいというふうに望む学校
- ・地域、保護者が子どもたちを行かせたいと思う学校
- ・働く教職員が誇りと思える学校

<新校舎に期待すること>

- ・どんな子どもたちでも学習しやすい、生活しやすい、ユニバーサルデザイン化された

教室環境や校舎設備

- ・子どもたちの安全が図れる学校
- ・のびのびと勉強、運動することができる、危険箇所のない学校
- ・防災に優れた施設。いざというときに地域の方々の避難場所になることが十分に考慮、配慮されている施設として、地域から愛される学校
- ・防災施設として体育館の地下に温水プール、温水シャワーが設置されていて避難してきた人たちが学校に避難すればいつでもお風呂に入れる施設。
- ・近隣への迷惑に配慮されたつくり

<新校舎の理念やキーワード>

【C委員】 けやき台小、若葉小はほかの学校と比べ、すごいところや、ちょっと弱い、もうちょっと伸ばしたい所と、各校で長年受け継がれている行事等についてお聞かせいただきたい。

【N委員】 若葉町の子どもは、ほんとうに人の話をよく聞く。いろんなことをやろうという気持ちもある。

【M委員】 集団になったときの規律、規範意識の高さ、避難訓練は見てほしい。500人が外へ避難するときの静寂はすごい。集団となったときに、みんなできちっと守るべきことは守れるところが、すばらしいところだろうと思う。

【O委員】 学年が上の子と下の子と仲がいい。上の子が学年下の子の面倒をよく見る。一緒に手をつないで登校してきたりする。

【C委員】 両校で共有できる部分というのが、あることがわかった。共有できているものは次の新しい学校にも受け継ぐことができると思う。

【M委員】 もうすこし伸ばしたらいいのは、学力である。

【O委員】 クラス数が少ない学校では、年代によって学力は大分異なる。学年に合わせた指導を考えながら、学校全体で取り組んでいる。将来、立川をしょって立つ子どもたち、日本をしょって立つ子どもたちという意識があり、学校としては外国語活動に力を入れて研究テーマとしている。

【A委員】 九中に来ると、思考力、判断力はあると思うが、自分から発信する力というのがちょっと弱いかなという気がしている。小学校と中学校の共通してやらなくてはいけないと思う。

【C委員】 そのようなことを伸ばしていけるような学校づくりとして、表現の場や外国語活動で、教室をつくり込んでいく等、どこに重点を置くかを学校の運営や、子どもたちにこれから必要な教育は何か等をリンクさせて考えていけると良いと思う。

【A委員】 将来は、小中連携がやりやすくなる。九中の売りは、農園だが、小学校からどのようにつないでいくかという、9年間の系統性を持たせたい。

【N委員】 行事については、大きな学芸会と運動会が開催されている。加えて若葉小学校の「おやじの会」の活動は活発である。

【O委員】 伝統として、ごみ出しボランティアというのをやっている。若葉町団地のお年寄りのところに行き、ごみを捨てに行くというボランティアがある。

【H委員】 昔は、九中のブラスバンドがすごく盛んであった。東京都の大会で金賞を受賞している。何年も続けて受賞しているぐらい優秀だった。

【G委員】 けやき台小学校は、けやき祭りという、中高学年の子どもが、工作のお店をやり、見て回る行事があった。学年を越えた交流がもっともっとできるようになると良いと思う。

※司会を副委員長から委員長に交代

【L委員】 前回、少し広めの階段の場所の提案があった。教室だとなかなか発言ができなかった子が場所を変えると、みんなの前でうまく表現ができる。そういう場所が今の学校の中でない。子どもたちが伸びる工夫があると良いと思う。

【D委員】 祭りなどを通して下の面倒を見るのを楽しみにしてきた子どもたちが育ってきていた。中学に行っても仲が良い。成人後も若葉小とけやき台小の子が合流している。縦のつながりもでき、先輩や友達も面倒を見てくれる学校を見てきている。けやき台小学校と若葉小学校のいいところを引き継いだ学校であってほしいと思う。また、子どもたちの安全が第一で、何を守ってあげべきかという事を考えた学校をつくって頂きたいと思う。

【K委員】 ごみ出しのボランティアを通して、地域の方々が自発的に学校とつながろうとしている方がほとんどだと思う。お年寄りも元気になっていく。学校をみんなの学校と考え、若葉町に住んでいるいろんな方が子どもたちと交流することができるようなシステムが取り入れた学校ができるといいのかなと思う。

【K委員】 気軽に入れるようなシステムは、若葉町らしく良いと思うが、子どもの安全性をどのように保つか。多くの住民の方が小学校にかかわれるようなくみがつくれるといい。

【F委員】 地域の人たちとの交流をしたいと思うが、安全が保たれるかというのは難しいと思う。学校の安全は、一番守られなきゃいけないことだと思う。避難所の開設については、ご高齢の方が増えてきている。避難所の機能としてバリアフリーの観点からエレベーターが大切だと思う。エレベーター1基しかない状況で避難所運営まで考えて話し合えたらと思う。

【委員長】 キーワードや、いろいろなご意見、学校の取り組みも出たので、みんなに伝わる膨らみのある言葉に置きかえていくことができると良いと思う。例えば、明日また行きたい学校をつくるということで、明日また行きたいというのはどんな学校か。子どもや先生の立場で、あるいは保護者の立場で、地域の立場で子どもを見続けたときに、そこからいろんなことが考えられる。今後の議論の中で、それぞれの立場でいろいろ膨らませて考えられるような、表現、言葉というのを幾つか掲げて、幅広く皆さんに投げかけられる形にまとめられたらと思う。

【C委員】 今日出されたキーワードが、膨らみを増していくと思う。本日のキーワード（案）では、学校像は若葉小学校をベースにされているが、それ以下は、どこの学校でも当てはまることである。ごみ出しボランティアであるとか、子どもたちの表現力向上等、学校ならではのものが見えている。新校舎の理念だけでなく、学校像が見えてくるのが大切だと思う。児童の安全性と地域開放は、施設だけでは全部解決できないので、運用でどうするか。どのぐらいまで施設の面で調整をするか。すり合わせが必要になってくると思う。

【委員長】 今回は、今日出された意見を踏まえて、事務局と設計者でたたき台をつくり、たたき台をもとに理念について確認をすることを次回の課題とする。同時に、全体のスケジュールの中で、次回のテーマと併せて次回お願いしたいと思う。理念は、委員会から学校を大事に思っている人たちに対する投げかけの言葉であり、設計者に対する言葉。今後は、具体的な姿が少しずつあらわれてくる。議論だけではなく、目の前に立ち上がってくる楽しさを共有し、学校づくりを進めていくことができたらと思う。

5 次回日程について

①視察（第3回新校舎建設マスタープラン検討委員会）

日程：平成28年10月11日（火） 午後2時～4時（午後1時にけやき台小に集合）

視察先：川崎市立はるひ野小中学校

②第4回新校舎建設マスタープラン検討委員会

日程：平成28年10月19日（水） 午後6時～8時

会場：けやき台小学校

- ・ 第1回の検討委員会の議事要旨について、訂正の有無を確認。立川市のホームページに掲載する旨を伝えた。